



綾町



2019年10月11日
宮崎県東諸県郡綾町
公益財団法人イオン環境財団

「綾ユネスコエコパーク」で300名の方々と3,000本を植樹します 10月19日(土) 宮崎県「綾町イオンの森づくり」植樹を実施

宮崎県東諸県郡綾町(町長 靱田学 以下、綾町)と公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役 以下、当財団)は10月19日(土)、「綾町イオンの森づくり」植樹を実施します。

綾町は、2012年7月に国内で5カ所目のユネスコエコパーク※に登録された日本最大規模の照葉樹林を有する町です。また、当財団は2017年8月、日本ユネスコエコパークネットワーク(以下、JBRN)と国内初となる連携協定を締結しています。本協定に基づき、「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、①生物多様性の保全、②持続可能な資源利用と発展、③ユネスコエコパークを利用した環境教育、④ユネスコエコパークの価値と知見の啓蒙の4点に関して、日本各地のユネスコエコパークと連携した取り組みを進めています。

本植樹は、「綾ユネスコエコパーク」の中核に位置する「綾町イオンの森」を、人と自然の共生を目指すユネスコエコパークらしい森に整備するために実施するもので、「綾町イオンの森づくり」整備・保全協定に基づき、2018年からの2年間で2,000本を植樹する計画です。このたびの最終年は、300名のボランティアの皆さまと3,000本を植樹します。

なお、綾町と当財団は、2013年から2015年の3年間にて、中学校校舎の建て替えのため伐採された町有林跡地に1,750名のボランティアの皆さまと地域に自生する樹種15,000本を植樹しました。

綾町とイオン環境財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時：2019年10月19日(土) 10:00~11:30

場 所：宮崎県東諸県郡綾町大字北俣字割付2027-1

参加人数：300名

本 数：3,000本

面 積：2.04ha

樹 種：ヤマザクラ・ヤマナシ・コナラ・クチナシなど計21種

主 催：宮崎県綾町、公益財団法人イオン環境財団

後 援：宮崎県

協 力：宮崎県中央森林組合、イオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社

出 席 者：宮崎県環境森林部総括次長 松田 広一 様

(予定) 宮崎県東諸県郡綾町長 靱田 学

公益財団法人イオン環境財団専務理事 林 直樹

※ 生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、1976年よりユネスコが開始。生物圏保存地域(Biosphere Reserves: BR)に、より親しみをもってもらうため、日本国内ではBRをユネスコエコパークと呼ぶことが、2010年1月、日本ユネスコ国内委員会で正式に決定されました。ユネスコエコパークの登録件数は、124か国701地域(2019年6月現在)となっており、現在日本では「志賀高原」「白山」「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」「屋久島・口永良部島」「綾」「只見」「南アルプス」「みなかみ」「祖母・傾・大崩」「甲武信」の10件が登録されています。

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団の活動について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。

イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2019年度は、国内では北海道南富良野町、宮城県石巻市にて、海外では中国武漢、インドネシア ジャカルタ、マレーシア ビドゥーにおいて植樹活動を実施しました。

【これまでの「綾町イオンの森」植樹について】

綾町は、自然とまちづくりを推進しており、伐採時期を迎えていた町有林の木材を利用し、2015年3月に老朽化した中学校校舎を建て替えました。その跡地に本来の里山に復元すべく、綾町、宮崎県、宮崎中央森林組合、当財団による整備・保全協定のもと、地域に自生する樹種を植樹しました。2013年から2015年の3年間でのべ1,750人が15,000本を植樹しました。また、2016年から2017年の2年間で草刈りや補植を行いました。



2017年の「綾町イオンの森づくり」植樹



綾町立綾中学校

■助成・支援事業

[環境活動助成]

1991年より28年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行い、累計では2,948件、総額26億8,288万円となりました。2018年度は、活動分野を「植樹」、「里地里山里海の保全・河川の浄化」、「環境教育」、「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つに改編して実施しました。

■顕彰事業

[生物多様性アワード]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2019年9月26日（木）に東京で第6回「生物多様性日本アワード（国内賞）」の授賞式を行いました。



第6回「生物多様性日本アワード」授賞式(国際連合大学)

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア 学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2019年度は、「持続可能な平和のため」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）、フィリピン大学（フィリピン）の10ヶ国合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間、カンボジアのプノンペンとシエムリアップで開催しました。



第8回ASEP開講式（王立プノンペン大学）

[太陽光発電システム寄贈]

当財団は、設立20周年の記念事業として、日本国内外の小中学校へ2009年より再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、太陽光発電システムを寄贈してきました。2016年から2017年までの2年間、中国武漢市の小中学校合計10校に寄贈。また2018年からの2年間は、香港で寄贈を行っています。



2019年 太陽光発電システムの寄贈（香港）

■連携事業

[日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定]

2017年8月7日、日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田穰 宮崎県東諸県郡綾町長）と当財団は、「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に当財団が賛同し、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークとの連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。

[リモート・センシング技術センターとの連携協定]

2019年7月23日、一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長 池田要）と当財団とは、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモートセンシング技術の活用に関し連携協定を締結しました。具体的には、リモートセンシング技術による地球規模のグローバルな視点で得た、過去及び現在の地表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握します。また教育の場においては、リモートセンシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育も実施します。

[イオン未来の地球フォーラム]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論し、講演と対話型パネルディスカッションを通じて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。2020年2月1日（土）に、東京大学安田講堂にて「第4回イオン未来の地球フォーラム」を開催する予定です。